

伝統文化の発展と衰退

地域の伝統文化の担い手育成の課題

報告 ①

※【訂正】報告は33号から38号まで連載します。

歴史と概要

六齋念仏は、十世紀に空也上人によってはじめられた踊躍念仏を起源とする。しかし、空也上人の踊躍念仏がどのような歴史を経て現在の六齋念仏に至ったかを正確に裏付ける資料は存在していない。様々な資料から推察されるのは、江戸時代中期には現在の六齋念仏と呼ばれるような芸能が成立していたという事。

江戸時代中期以降の六齋は、その芸能と演目によって念仏を中心とする「念仏六齋」と、芸能を中心とする「芸能六齋」の二つに大別される。念仏六齋は、念仏を伴える太鼓曲が中心であるが、芸能六齋の場合、演目のうち最初と最後の演目には念仏を唱えるが、他の演目に四つ太鼓、六つ太鼓の曲打ちや祇園囃、若重太郎、獅子と土蜘蛛などの芸能を中心に構成されている。



江戸時代中期に行われていた「六齋念仏」芸能

保存と継承

明治期以降、京都における六齋は芸能六齋が主流となり、念仏六齋は衰退していった。戦時中、京都の六齋(保存会)は一時的に中断するが、戦後に各地域で再開された。

一九五三年、京都市主催で円山公園で行われた「六齋コンクール」が開催されるなど活気を呈している。同年、吉祥院、久世、桂の六齋

組が国の重要無形文化財に指定された。一九五五年前後まで六齋が活発に行われていたが、都市化や高度経済成長期の中で就業形態や娯楽などが多様化し、それに伴い、六齋は急速に衰退していった。

このような状況の中、伝統文化として高い水準を持ち継承・育成するに値するものとして、国から重要無形民俗文化財の指定を受けることになる。ただし、これは特定地域の六齋を対象とした指定ではなく、京都六齋念仏保存団体連合会に加盟する市内の六齋保存会を指定対象としている。

調査の方法

調査は二〇一〇年

二〇〇一年時点で京都市内の十二団体の保存会が指定された。中でも、唯一、念仏六齋を伝承している上鳥羽と西方寺の二つ保存会も重要無形民俗文化財に指定されている。

地域の概要

吉祥院地域は、南区のほぼ中央に位置し、桂川の東に隣接する近郊農村地域で戦前は住民の約八割が農業従事者であった。

学問の神様とされる菅原道真の祖父清公が遣唐使としての任務を無事に果たし、帰朝後、吉祥院天女像を自ら刻み、謝恩のため一堂を建立し、吉祥院と称したのがいつしか地名となったと伝わる。

吉祥院地域に西国街道が横断し、幾多の人々が従来し、物流が流れ、情報や文化、芸能の伝播を担う動脈の街道であった。



日向地蔵

西国街道とは、江戸時代における街道の一つで近世山陽道の別名である。西国街道の起点とする東寺口、羅生門址から九条通りを西へ、九条御前の交差点を斜めに入り、西高瀬川を越え、吉祥院病院前を通り、西ノ茶屋の信号を渡り、

吉祥院運動公園沿いにひっそりと佇む日向地蔵を右手に見て、桂川に架かる久世橋を渡り、久世、向日町、長岡京市、大山崎、高槻、淀川右岸を通り、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、西国(下関、九州まで)の577kmの街道で江戸時代の重要な幹線道路であった。今でこそ西国街道は裏通りとなっており、国道171号線に幹線道路としてその

使命を委ねているが、ひとむかし前までは、京都と西国を結ぶメインストリートとしての役割を果たした重要な道路であった。

西国から来た旅人らが京のまちを目前に街道の西側に三軒あつた茶屋(西ノ茶屋、上ノ茶屋、下ノ茶屋)で休憩し、わらじの紐締め直し、弁当を開いて都に入る前の腹ごしらえをする茶屋として大いに繁昌したという。その意味では、吉祥院地域の西国街道を多く人が駆け抜けていた時代の軌跡とも云える。

一九三一年四月、京都市下京区に編入していたが一九五五年に下京区から南区として独立したことによって、現在のような行政区分となる。

現在、南区は高度経済成長期以降急激な都市化によって地域が一変する。

第34号につづく



オーナーの西片 麗子さん



祭りの思い出



西片 麗子

私にとってお祭りは「特別」です。私が子どものころは町の明かりが少なく、あまり夜に出歩くことはありませんでした。でも、お祭りの日だけは、特別で夕方から露店が並び、その一帯が明るくにぎわって、その日だけは遅くまで起きています。それが許されていて、嬉しく感じました。

また、毎年吉祥院天満宮で奉納される吉祥院六齋念佛踊りを舞台の間近で見られることも、子どもながらに特別に感じていました。最後の演目である獅子と土蜘蛛が



吉祥院六齋保存会／演目『獅子と土蜘蛛』

終わった後に、舞台上に上がって蜘蛛の巣を持ち帰ったことも良い思い出です。大人になってからは、お祭りに足を運ぶことも少なくなっていました。が、家庭を持ち、自分の子どもたちが「吉祥院子ども六齋会」に入り、舞台上に立つことになってからは、またお祭りに赴くことが増えました。

昔見ていた舞台に子ども立ちが立つ姿や、私と同じ場所でお祭りを楽しんでる様子を見て、感慨深い想いがしました。お祭りでは、普段会えない人とはつたり再会することもあり、みんなが楽しみにしていることを実感します。そして、特別だと感じている人も、きっと私だけではないと思います。ここ数年新型コ

お店の紹介



クーシユリは昨年九月十日に開店したばかりの素敵なお店です。お店では、お父様やママ麗子さんが経営しています。麗子さんのお父様がやってきたコロッケをも一度つくりたかったのが切っ掛けでオープンされました。

また子どもがらお年寄りまでつくられたかという熱い想いが伝わり、お父様の自慢は、お父様から譲り受けた伝承の味「治三郎コロッケ」とのこと。味がしつかりついでいるので、そのまま食べられ、ソースなどはいりません。



ロナウイユスの影響で、昔のように人が集まってお祭りができない状況ですが、また以前のように多くの

人でにぎわい、世代を超えて楽しめるお祭りがまた開催できることを願っています。



◆営業時間
十一時から十八時三十分

◆定休日
土・日・祝

※新型コロナウイルス感染症拡大で営業時間・定休日が変わる場合がございます。

Always your homemade deli

いつもあなたの自家製デリ



あかずとパンのお店
Koselig 店主 ニシカタレコ
Instagram LINE
〒601-8334 京都市南区吉祥院東砂町12
080-2584-1107 (月曜～金曜)
koselig.koselig 11:00～18:30